

S T S フォーラム (Science and technology in Society forum)

実施機関：特定非営利活動法人 S T S フォーラム (総括責任者：尾身 幸次)

実施期間：平成 23 年度

プロジェクトの概要

科学技術の発達が人類により大きな便益と福音をもたらすことが期待される一方で、人類と地球環境を脅かす存在にもなりうるとの認識のもと、世界各国の科学者、政治家、政策担当者、経済人、ジャーナリストが一堂に会して科学技術の“光と影”、科学技術と人類の未来に関して議論するフォーラムを開催することにより、人類の発展と調和した科学技術の適切な発達に寄与することを目的とする。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
S	a	s	a	a

総合評価：S (所期の計画を超えた取組が行われている)

(2) 評価コメント

本シンポジウムは、科学技術について議論する国際会議として世界の関係者に広く認知されてきている。このシンポジウムが8年間にわたり日本で継続して開催されていることは、我が国のプレゼンス向上に大きく貢献しているものと高く評価できる。今後、さらに安定して継続展開するための基盤強化に向けた検討を期待する。

・**目標達成度**：東日本大震災等の影響により、所期の計画より少ない参加者となったが、世界80ヶ国より800人の科学者や政界・財界人等のトップリーダーが一堂に会し、幅広い分野にわたり議論が行われたことは、目標を達成していると評価できる。

・**成果**：本シンポジウムは、我が国のリーダーシップのもとに、科学技術の光と影について広く討議する世界的な行事として定着してきており、国際的な政策対話の推進に向けて十分な成果が得られている。科学技術における国際的な政策対話の推進において、日本のリーダーシップとプレゼンスの向上に対する貢献は非常に高く評価できる。

・**計画・手法の妥当性**：国際的な政策対話の場の形成に向けた工夫など、その計画・手法は妥当であると評価できる。

・**実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：シンポジウム終了後も、シンポジウムでの議論をもとに科学技術政策の提言を各国に発信する等の活動にも力を入れており、このような国際交流を継続する工夫は評価できる。今後の長期にわたる継続展開に向けて、種々の工夫を凝らし、資金の安定化、組織及び運営体制の一層の強化に向けた検討を期待する。